

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：33109

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21530746

研究課題名（和文）リウマチ性疾患の心理教育リハビリテーションプログラムの開発と適用

研究課題名（英文）the development of psychoeducational treatment program for rheumatoid diseases.

研究代表者村松 公美子（MURAMATSU KUMIKO）

新潟青陵大学大学院 臨床心理学研究科 教授

研究者番号：60339950

研究成果の概要（和文）：

リウマチ性疾患患者において臨床心理学的調査を行った。その結果、機能性身体的愁訴や疼痛の軽減について、認知行動療法を含む臨床心理的支援が有効に働く可能性を示唆された。機能性愁訴や疼痛領域における心理教育リハビリテーション（臨床心理学的支援）のプログラム開発のための方向性づけが示唆された。

研究成果の概要（英文）：

We studied the clinical psychological characteristics of rheumatoid diseases.

To make our assessments, we used the following: the psychological interview, the Visual Analogue Scale, the self-rating psychological questionnaires and the condition of rheumatoid diseases. We supposed the relationship between the symptoms of rheumatoid diseases and the psychological factors.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学、臨床心理学

キーワード：リウマチ、臨床心理学、認知行動療法

1. 研究開始当初の背景

リウマチ白書では、関節リウマチ患者の 49.7%が「激しい痛み」をつらいと感じ、54.5%が「薬の副作用や合併症」に対して不安を持っていることが報告されている。海外では、関節リウマチ患者の気分障害・不安障害等に関する有病率の報告や疼痛に対する認知行動療法に関する報告が多くなされている。し

かしわが国では、関節リウマチ患者の抑うつ症状や不安症状などについての検討は少ない。また近年、生物学的製剤の導入など先端医療の進歩により、関節リウマチの治療の選択肢は大きく広がっており、治療薬に関する情報も増加傾向にある。患者が自分自身の「QOL 生活の質」の向上ための最適な治療を選択していく中で、身体的治療とともに心理

的支援が強く要請されている。しかしわが国では、関節リウマチ患者の心理的問題への対処の重要性や抗うつ薬などの薬物療法について、述べられていても、認知行動療法プログラムなどにもとづく臨床心理学的支援の実際的介入に関する研究は行われていない。またわが国では、うつ病や不安障害などの患者に対する認知行動療法プログラムは、最近導入されているが、身体愁訴や疼痛症状等を対象としたものについてはほとんど行われていない現況が背景としてあった。

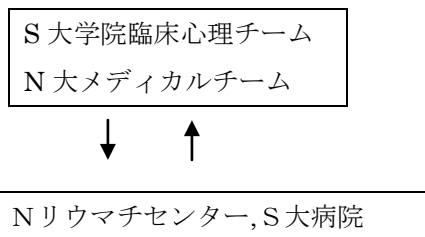
2. 研究の目的

本研究では、リウマチ性疾患患者の臨床心理学面での調査を行い、疼痛領域に対する認知行動療法を含む心理教育リハビリテーション（臨床心理学的支援）のプログラム開発のための方向づけを行うことを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 研究 A

リウマチ性疾患における臨床心理学的調査（研究体制）



(対象) :

調査疾患 :

リウマチ性疾患（関節リウマチ、線維筋痛症）

非リウマチ性疾患（シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス混合性結合組織病、強皮症、皮膚筋炎・多発性筋炎、顕微鏡的多発血管炎、結節性多発動脈炎）

比較対照疾患：口腔顔面領域疼痛患者

(方法) :

a. 個別診察

関節リウマチの評価 DAS28 コアセット

b. 心理面接

自己記入式質問票による調査

①疼痛尺度：the Visual Analogue Scale (VAS)

②身体感覚増幅尺度 Somatosensory Amplification Scale

(研究代表者（村松）らによる日本語版)

③抑うつおよび不安尺度、心気尺度

Patient Health Questionnaire (PHQ)
(研究代表者（村松）らによる日本語版)

Generalized Anxiety Disorder

Questionnaire-7 (GAD-7)

(研究代表者（村松）らが日本語版の作成と妥当性・有用性検討も行った)

Hospital and Anxiety Depression Scale (HADS) (日本語版)

実施施設における倫理委員会の承認後に本研究の趣旨を説明しに調査協力依頼し、同意が得られ場合において調査を実施した。

(2) 研究 B :

研究代表者（村松）、分担研究者（斎藤）を中心とする臨床心理チームはリウマチ性疾患における心理教育プログラムの開発のために、研究協力者（Barsky AJ）が開発し、米国で実施されている機能性身体症状管理のための認知行動療法マニュアルの日本語版を翻訳編集を行い、有効性検証論文の翻訳を行う。また当プログラムに事例検討も行う。

(3) 研究 C :

連携研究者（田中）は、リウマチ性疾患との比較対照疾患として、口腔顔面領域の機能性疼痛について、臨床心理学的調査を行い、心理学的支援の可能性について検討を行った。

4. 研究成果

(1) 研究 A

現時点でリウマチ性疾患 N=295 名につき、集計終了した。本年度中に学会報告する予定である。

概要：VAS は SSAS と弱い相関傾向を示したが、抑うつおよび不安尺度との有意な相関はみられなかった。重回帰分析では、VAS に影響を与える因子として年齢、DAS、SSAS が推定された。今後さらに詳細な解析を行う予定であるが、自覚的疼痛に個人の身体感覚増幅 Somatosensory Amplification の程度が関与していることが推定された。疼痛現象は、生理学的現象と心理学的現象の相互現象であると考えられる。痛覚そのもの（原感覚成分）と痛みの感受性（反応成分）の間の複雑相互作用においては身体感覚増幅 Somatosensory Amplification の程度が不安や抑うつよりも関与している

可能性が示唆された。これらのことから、リウマチ性疾患患者における機能的身体的愁訴や疼痛の軽減について、認知行動療法を含む臨床心理的支援が有効に働く可能性を示唆していた。

補足研究:研究Aに使用するGAD-7(日本語版)プライマリ患者(N=161)における検討を行ったところ、高い信頼性・妥当性が認められ、不安尺度としての有用性が認められた。

(2)研究B

研究代表者(村松)、分担研究者(斎藤)研究協力者(Barky AJ)は、機能的身体症状の管理プログラムのための認知行動療法マニュアルの日本語用を翻訳・編集した。さらに管理プログラムの有効性について検証を行った Cognitive Behavior Therapy for Hypochondriasis A Randomized Controlled Trial. JAMA 291, 1464, 2004 の翻訳解説を行い、プログラムを導入した事例の検討を行った。平成24年度中に「心身医療の認知行動療法ハンドブック(仮)」として発刊予定である。機能的身体症状の管理プログラムの概要および上記有効性検証論文から有効性について一部を下記に示す。

①機能的身体症状の管理プログラム

セッション1:導入
セッション2:注意
セッション3:認知
セッション4:文脈
セッション5:行動

②心気症状に対する認知行動療法の有効性

	身体感覚増幅(1-5点)
治療群	平均(SE[95%CI])
ベースライン	3.25(0.067[3.12-3.38])
12ヶ月時点	2.82(0.070[2.68-2.96])
対照群	平均(SE[95%CI])
ベースライン	3.04(0.073[2.90-3.19])
12ヶ月時点	2.87(0.077[2.72-3.03])

ベースラインと認知行動療法プログラム導入後の12ヶ月のフォローアップ時点において、身体感覚増幅の程度は、有意に低下していた。(P=0.03)

(3)研究C

連携研究者(田中)が、リウマチ性疾患の比較対照疾患領域として口腔顔面領域における疼痛患者に対して、臨床心理学的調査を行い、臨床心理チームと連携をとり臨床心理学的支援の可能性について事例検討を行った。

研究概要の一部:

歯科麻酔科外来患者に対して、
①精神疾患簡易構造化面接 M. I. N. I. -plus)
②自己記入式質問票
Hospital Anxiety and Depression scale
Somatosensory Amplification Scale

結果

身体表現性障害が最も多く、不安障害、気分障害の順であった。歯科麻酔科外来患者における非器質性疼痛患者の背景には、身体表現性障害が併存しており、機能的身体症状を管理する認知行動療法プログラムの必要性が示唆された。

今後の課題:

リウマチ性疾患領域、口腔顔面領域における機能的身体愁訴、疼痛について、同一プロトコルによる認知行動療法による介入の効果についての検討をさらに行い、心理教育リハビリテーション(臨床心理学的支援)を検討している。現段階では未解析の検討事項もあり、今後、さらに詳細な検討を行い、報告する予定である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計1件)

田中裕, 村松芳幸, 真島一郎, 村松公美子
他9名. 口腔顔面領域の慢性疼痛患者に対する初診時の心理的因子の検討. 心身医学, 査読有, 第50巻第12号, 2010, 1187-1196

[学会発表](計3件)

- ①村松公美子, 宮岡等, 上島国利, 村松芳幸
他14名: GAD-7日本語版の妥当性・有用性の検討. 第51回日本心身医学総会, 仙台市. 心身医学, 2010, 第50巻第6号, 166
- ② Yutaka Tanaka, Yoshiyuki Muramatsu, Kumiko Muramatsu et al;
Evaluation of Psychosomatic Factor Contributions to Patients with Chronic Orofacial Pain at the First Admission. The21st World Congress PsychosomaticMedicine, supplement, 195, August 25-28, Seoul, 2011.

③田中裕, 瀬尾健司, 村松芳幸, 村松公美子
他3名. 精神疾患簡易構造化面接法と
用いた口腔顔面領域患者の心身医学的診
断の試み. 第16回日本心療内科学会総会.
東京、日本心療内科学会雑誌、2011、
第15巻、抄録号、104.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村松公美子 (MURAMATSU KUMIKO)
新潟青陵大学・大学院臨床心理学研究科
教授
研究者番号：60339950

(2) 研究分担者

橘玲子 (TACHIBANA REIKO)
新潟青陵大学・大学院臨床心理学研究科
教授
研究者番号：00018384

運上司子 (UNJYO SISAKO)
新潟青陵大学・大学院臨床心理学研究科
教授
研究者番号：00440462

斉藤恵美 (SAITO MEGUMI)
新潟青陵大学・大学院臨床心理学研究科
助教
研究者番号：50460324

(3) 連携研究者

村上 修一 (MURAKAMI SHUICHI)
新潟大学医歯学総合病院
腎膠原病内科
助教
研究者番号：80420321

村松 芳幸 (MURAMATSU YOSHISYUKI)
新潟大学医学部保健学科
教授
研究者番号：80272839

田中 裕 (TANAKA YUTAKA)
新潟大学医歯学総合病院
講師
研究者番号：50323978

三輪 裕介 (MIWA YUSUKE)
昭和大学医学部
助教
研究者番号：70420940

(4) 研究協力者

Arther J Barsky
Professor of Psychiatry
Brigham and Women's Hospital,
Harvard Medical School

村澤 章
新潟県リウマチセンター
院長

伊藤聡
新潟県リウマチセンター
内科部長

小林大介
新潟県リウマチセンター
内科医長